

福島県教育研究所

第1節 概 要

本県教育の進歩および改善に必要な諸問題を調査研究し、本県教育の伸展に寄与する目的をもって、教育研究所は次のような体制のもとで、各領域にわたる調査と研究および教職員の研修業務に従事した。

1 事務分掌

(1) 総務係

予算の経理、文書の収受、発送、編集、物品の出納、その他諸係の所掌に属さないこと、教育図書室の運営に関する事務。

(2) 研究係

① 教育に関する専門的技術的事項の調査研究ならびに指導助言に関すること。

② 教育に関する調査研究資料の編集および刊行に関すること。

(3) 研修係

① 教育職員の研修に関すること。

② 教育相談に関すること。

第2節 教育研究

本年度は前年度の継続研究として7つの研究主題を取りあげそれらの研究にあたった。そのうち、高等学校における学力形成過程の研究はまとめの年度にあたり、他は研究第2年次としての研究にあたった。

特に、「地域教育振興に関する研究」と「学習指導法の改善に関する研究」とは実験学校の教職員を研究員に委嘱し、教育現場との共同による実証的研究である。

この「地域教育振興に関する研究」は伊達町地区の小・中学校を実験学校に設定し、小・中一貫した指導理念に立った教育の実践により、児童・生徒の学力の向上をはかり、地域教育振興の基盤を確立することを目的とした研究である。この研究の趣旨の理解をはかるとともに指導上の参考資料の提供を目的として昭和43年2月5・6の両日本庁および教育事務所の指導主事を対象として研究の中間報告会を行なった。

学習指導改善に関する研究は福島市立松陵中学校を実験学校に設定し、社会、理科、英語を研究教科として研究を進めている。理科については、全国教育研究所連盟の「学習指導の近代化」に関する共同研究の一つとしてあわせ研究を行っている。

1 戦後の福島県における教育の史的研究

(1) 研究内容

① 我が国の教育施策が本県でどのように受けとめられ、どのように具体化され、そしてそれによって生じた結果や影響がどのようなものであったかを明確にする。

② 国際的・国内的に影響をもった教育思潮や、近代化・現代化を志向する教育目的、内容、方法が本県教育にどのように浸透し変容したかを明確にする。

③ 本県における教育実践の事実をは握し、その変遷の各段階における実態を明らかにし、その傾向性をは握する。

④ 本県における教育と、政治・経済・社会・文化などの教育以外の諸分野の進展との相互作用を明らかにしながら本県教育が教育以外の諸分野に与えた影響や、教育以外の諸分野からの要請による本県教育の変ぼうを明確にする。

⑤ 本県における各地域や学校の教育的な個性が、教育条件の変化によってどのように伸展し発展したかを明確にする。

(2) 研究対象

① この研究は、特に学校教育に関するものに限定して研究を進めていく。

② 大学、短期大学、幼稚園ならびに私立の諸学校の場合はこれを除外する。

③ 昭和20年4月より昭和41年3月までの期間を限定して研究を進めていく。

(3) 本年度の研究

研究第2年次としての本年度は、年表の作成（昭和43年度完成）と資料の収集を行なってきた。資料収集対象校は次の学校である。

石川町立石川小学校	小野町立小野新町小学校
〃 沢田小学校	〃 小野小学校
浅川町立浅川小学校	常葉町立常葉小学校
〃 浅川中学校	〃 常葉中学校
いわき市立田人第一小学校	郡山市立金透小学校
〃 平第一小学校	〃 小原田小学校
〃 小名浜第一中学校	〃 郡山第一中学校
〃 平第一中学校	〃 行健中学校
三春町立三春小学校	
〃 三春中学校	

2 地域教育振興に関する研究——その基盤としての学力向上

(1) 意義

地域における直接的な政治的・経済的・文化的・社会的な教育諸問題の解決にあたる研究ではなくして、その基礎になる問題を、学力の向上という視点においておさえ、この問題の解決をはかることによって、地域教育全般の振興の基礎づくりを行なおうとするものである。

(2) 性格

① 油井・平野・半田・西根、各実験学校において研究したものの発展的志向において実施する。

② 特に小・中学校一貫の教育志向を醸成していく。

③ 学校教育と家庭教育の機能的協力をいっそう重視する。

④ 研究方法は、アクション・リサーチを根幹とする。